

篠山市篠山伝統的建造物群保存地区

防災マニュアル

住民の暮らしと伝統的な町並みを守るための手引き

篠山市篠山伝統的建造物群保存地区防災計画とは…

保存地区住民の生命、身体及び財産を災害から保護することを基本方針とし、さらに篠山城下町固有の歴史的な景観を活かしたまちづくりをさらに推進するために防災計画を策定しました。

本計画は (1)地域住民の防災意識・防災力向上 (2)地区の防災力向上 (3)建物の防災力向上の3つに分類し、それぞれに対応策を立案し、互いに連携させる多重的な取り組みによって地区の総合的な防災力の向上を図ります。

地域の課題

地域社会上の課題	地域防災上の課題		伝統的建造物における課題	
①居住者の高齢化 ②空き家の増加 ③昼間の人口の減少 ④防災訓練の未実施	消火設備の整備状況	周辺環境	①密集家屋による延焼の危険性及び避難の困難性 ②茅葺屋根への防火対策 ③耐震性能の低下 ④屋内電力配線の老朽化 ⑤屋根瓦の老朽化 ⑥家屋の防火性能	
	①消火栓の充実	①早期発見・初期消火・早期通報体制の確立		
	②消火栓の水圧向上	②狭隘道路		
	③防火水槽の充実	③町家における火元の特定		
	④篠山城外堀における取水環境の向上	④電柱電線		
	⑤住民が備える消防設備	⑤ブロック塀倒壊の危険性		
⑥消火器等の充実	⑥違法駐車車両			

防災計画の考え方

災害を発生させない地区・人・組織づくり	災害発生時の被害軽減・拡大阻止体制づくり	災害発生後の対応方法の検討
防災力の向上 防災意識の向上	被害軽減 被害拡大阻止 人命の保護	復興対策
↓	↓	↓
人・組織の育成 情報・広報 防災設備の充実 保存地区周辺地域と一体となった防災体制づくり	ハード面の整備 ソフト面の充実 救助体制の確立 大規模災害によるインフラ不通を視野に入れた整備	人命・財産の保護 建物の除却対策 建物の修理・復原(補助事業の活用) 地元住民組織・設計士及び施工者集団との復興に向けた連携

防災計画の構成

地域住民の防災意識・防災力向上	地区の防災力向上	建物の防災力向上
○災害を起こさせない住民意識の向上と災害回避に関する取り組みの充実 ○防災設備が利活用できる体制づくり	○災害を起こさせない地域環境づくり ○初期消火を重視したハード整備 ○大規模災害を想定した多重的な整備	○構造補強 ○防火設備整備

1 火災への対策

1) 日々の備え

防火対策は日々の点検が大切です。台所や風呂場など火元の定期点検を怠らないようにしましょう。また、伝統的な建物では屋内配線やガス配管の老朽化も心配されます。漏電やガス漏れなどを点検し、危険性が見られるものは取り替えが必要です。

「防火のための10ヶ条」

ストーブの周辺はすっきりと！ 特にカーテン、洗濯物には要注意。石油ストーブの給油、移動は必ず火を消してから。	風呂の空だきに注意！ 点火の時は浴槽の水量を確かめて。点火・消火は目で確認。
揚げ物のときはその場を離れない！ 電話や来客の応対は、必ず火を消してから。そばに燃えやすいものを置かない心掛けも。	コンセントにこまめな気づかい！ たこ足配線、コンセントまわりのホコリに注意。使わないときはこまめに抜く。
寝たばこ、ポイ捨て厳禁！ 寝たばこは、しない、させない習慣を。火のついたたばこの放置やポイ捨ても厳禁。	就寝前の火の用心！ ガスの元栓、コタツのコンセントなど指さし点検で火の元確認。
放火をさせない環境づくり！ 家の周りに燃えやすいものを置かない。物置、車庫などのカギはしっかりと。	危険なたき火は絶対にしない！ 消火用の水を用意して。子どもだけでたき火をさせない。
子どもにはマッチやライターで遊ばせない！ 日頃のしつけをしっかりと。目の届くところにマッチやライターを置きっぱなしにしない。	消火の備えを万全に！ 火災報知器や消火器を設置して防火訓練には積極参加。

2) 早期発見や通報のために

上・下河原町や小川町では間口が狭く奥行が深い敷地で、建物も主屋や離れ、土蔵と複数が建ち並ぶため、火災発生を近隣住民が知ることが困難な状況にあります。また伝建地区の全域で高齢化が進んでおり、火災発生や急病などの緊急事態に対し、地域ぐるみの監視体制を強めなければいけません。

住宅火災から大切な命、財産を守るためには、火災の早期発見が不可欠です。住宅用火災警報器等は、住宅火災による煙や熱を自動的に感知し、警報を発することによって、火災の早期発見が可能になります。未設置の方はできるだけ早く住宅用火災警報器等を設置しましょう。

「もしも火が出たら…」

初期消火3原則	① 早く知らせる	「火事だ！」と大声を出し、隣近所に援助を求めましょう。声がでなければ、やかんなどを叩き異変を知らせ、ただちに119番通報をしましょう。
	② 早く消火する	消火は出火から3分以内が消火できる限度です。消火器や水だけでなく座布団や毛布などで火を覆うなど、手近なものを活用しましょう。
	③ 早く逃げる	天井に火が移ったら、すぐに避難をしましょう。避難するときは、延焼を防ぐため、燃えている部屋のドアや窓を閉めましょう。
④ 隣家への飛火・類焼	室温の上昇や空気の混入などにより、爆発的に燃え上がる現象（フラッシュオーバー）が起こると、一気に勢いを増し、隣の建物に燃え移ります。	
⑤ 地区への延焼・拡大	地区へ火災が広がってしまったら、指定された場所へ集団で避難しましょう。避難する際は必ず徒歩で。	

3) 初期消火のために

全ての建物に消火器を設置することは防火対策の基本です。今後、初期消火活動を支援するため、屋外設置の水バケツや消火器、簡易消火栓の設置整備などを市と篠山まちなみ保存会等とが連携しながら進めることを検討します。また各住宅で利用されている井戸を、消火時の水源や非常時の雑水用として活用することもあわせて検討します。

「火元別初期消火方法」

油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がないときは、濡らした大きめのタオルなどを手前からかけ、空気を遮断しましょう。



風呂場

火勢が強まる危険があるので、すぐに戸を開けるのは禁物。ガスの元栓を閉め、徐々に戸を開けて、一気に消火しましょう。



石油ストーブ

真上から一気に水をかけます。石油がこぼれて広がったら、毛布で覆い、水をかけて消火しましょう。



電化製品

いきなり水をかけると感電のおそれがあります。まずプラグを抜いて（できればブレーカーも切る）消火をしましょう。



衣類

衣類に火がついたら、転げ回って消す方法も。髪の毛の場合は化繊以外の衣類やタオルなどを頭からかぶりましょう。



カーテン・ふすま

カーテンやふすま等の立上がり面に火が燃え広がるともう余裕はありません。引きちぎり、蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火をしましょう。



4) 自主防災組織の活性化

自治会、消防団、篠山まちなみ保存会と相互に連携をとりながら、災害に強いまちづくりを推進するため、自主防災組織の活性化を図りましょう

自主防災組織は、防災に関する核組織として、常日頃からの防災意識の啓発や向上に努め、初期消火の訓練（消防設備の使い方やバケツリレーなど）、緊急時の避難や安否確認方法の検討を行い、地区の連帯感を高め、住民主体の初期消火体制を構築しましょう。



篠山市他校区での自主防災活動(左：八上校区 右：古市校区)

2 地震への対策

1) 日々の備え

伝統的な建築物は、建築後長い時間が経過していることから、地盤沈下や蟻害、腐朽といった被害により本来の耐震性能を損なっている場合があります。居住者は建物や塀などの状態を定期的に点検し、不具合や問題点を改善するように努めましょう。

また、地震時に家の中でけがをしないためにも家具類を固定しておくことや、子どもやお年寄りのいる部屋や寝室にはできるだけ家具をおかないようにすることも重要です。

2) 伝建事業にあわせた構造補強

伝統的建造物の保存修理は、建物の老朽化の程度により、解体修理、半解体修理といった根本的な修理と、屋根瓦の葺替え、漆喰壁の塗替えといった部分的な修理が行われています。これら伝建事業の実施にあわせ、筋交いや耐力壁、制震ダンパーの設置や腐朽軸部の交換等を進め、建物の構造補強及び耐震性能の向上に努めましょう。



筋交いの設置



耐力壁の設置



制震ダンパーの設置



土台取替え・基礎改修

「地震から身を守る10ヶ条」

まず我が身の安全を守れ！

地震が起きたら、まず第一に身の安全を確保するため、テーブルなどの下にもぐりましょう。

狭い路地、ブロック塀、がけなどに近寄らない！

ブロック塀・自動販売機などは倒れやすいので注意。がけや川べりも近づかないようにしましょう。

すばやく火の始末！

「火を消せ！」とみんなで声をかけ合い、調理器具、暖房器具などの火を確実に消しましょう。

山崩れ、がけ崩れに注意！

山間部で地震を感じたら、ただちに避難をしましょう。

戸を開けて出口の確保！

木造以外の建物ではドアが開かなくなることがあるので、出入口を確保しましょう。

避難は徒歩で、荷物は最小限に！

指定された避難所に徒歩で避難しましょう。荷物を持ちすぎると避難の支障になります。

火がでたらすぐに消火を！

「火事だ！」と大声で叫び、隣近所にも協力を求め初期消火に努めましょう。

近所に声をかけ、協力して避難・応急救護！

みんなで助け合い、けが人の手当てを。お年寄りや体の不自由な人の手助けをしましょう。

外へ逃げる時は、あわてずに！

外出中の家族にメモを残し、お年寄りや子どもの手をしっかり握って、落ち着いて行動しましょう。

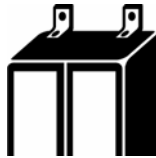
正しい情報を聞き、余震を恐れな！

うわさやデマは信じないようにしましょう。テレビ、ラジオ、市からの情報に耳を傾けましょう。

「家庭のできる地震対策」

タンス・食器棚・本棚

壁面に密着して設置し、つっぱりやL字型金具で上部と側面を固定します。荷物や食器、本は重いものを下、軽いものを上に。



額・掛時計・照明器具

落下防止のため、2ヶ所以上をしっかりと固定しましょう。その際、吊り紐は短く調整し、揺れ幅を小さくします。



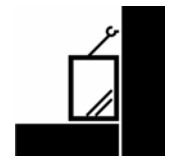
テレビ・ステレオ

上に花瓶や金魚鉢をのせると水がこぼれてショートし、発火する危険があります。またラックやパソコンデスクのキャスターは、できれば取り外しておきましょう。



家具や棚の上の飾り物

止むを得ず人形ケースなどを置く場合はヒートン(丸いわっかの金具)と紐などで柱に固定しましょう。



ベッド

キャスターは外し、落下転倒する可能性のある物からできるだけ離します。また、ガラスが砕け散った床の上を歩くことも考え、スリッパをベッドの下に置いておきましょう。



ピアノ

超重量級のピアノは倒れなくても横に滑るだけで凶器そのもの。足底部にゴム足などの滑り止めをつけましょう。



じゅうたん

厚めのじゅうたんは家具の横滑りを抑えます。ただし購入には防災マークの確認を忘れずに。



エアコン

大型で重いため、高い位置のエアコンはL字型金具でしっかりと固定します。外部の室外機も落下に十分注意します。



窓・カーテン

窓に限らず鏡などの板ガラス類には、飛散防止フィルムを貼りましょう。防災処理を施した厚手のカーテンの利用も効果的です。



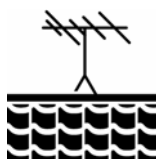
ベランダ

植木鉢、プランターの整理整頓。手摺にさびやぐらつきがないかチェック。エアコンの室外機は、倒れてガラスを割らないよう土台を固定します。



屋根

不安定なアンテナや屋根瓦、雨樋は補強して落下することのないようにしましょう。



家電製品

オーブンレンジや炊飯器などは、あまり高い場所に置かないようにしましょう。



ブロック塀・門柱

土中に40cm以上の基礎部分がないものや鉄筋が入っていないものは補強しましょう。ひび割れや鉄筋のサビも修理しましょう。



玄関

自転車、ベビーカー、ショッピングカートなど、脱出するときに邪魔になるものは置かないようにしましょう。



火気器具の周囲には、燃えやすいものを置かないように、整理整頓しておきましょう。



自分で防止措置ができにくいときは、周囲の人や近所の人に協力をお願いしましょう。



3 わが家の耐震診断

1) 家屋倒壊の防止

地区内における家屋の多くは、昭和戦前期までに建てられた伝統的な建造物です。現状では地震による倒壊への不安が非常に高いといえます。

① 誰でもできるわが家の耐震診断（簡易耐震診断）

簡便な「誰でもできるわが家の耐震診断」により居住者自らが簡易耐震診断を実施しましょう。高齢者だけの世帯では、近隣住民や自治会などの協力により実施しましょう。

② 専門耐震診断

「簡易耐震診断」の結果、「専門家に診てもらいましょう」と判断される一般住宅や伝統的な建造物に対しては、順次、専門家による耐震診断を行う必要があります。

③ 耐震改修の実施

居住者自らの耐震診断の結果をもとに、「伝建事業」や兵庫県の「わが家の耐震改修促進事業」などの補助制度等を利用しながら、耐震改修を進める必要があります。建物修理の際には、耐震改修もあわせて実施することが望ましく、伝統的工法に現代的技術を生かした耐震改修を行いましょう。

2) 誰でもできるわが家の耐震診断

出典：監修 国土交通省住宅局 編集（財）日本建築防災協会「誰でもできるわが家の耐震診断」リーフレット

① この診断の目的

この耐震診断は、ご自宅の耐震性能の理解や耐震知識の習得を進めていただき、耐震性の向上を図るための耐震改修に向けて、より専門的な診断を行う際の参考にしていただくことを目的に作られています。

② 対象住宅

この診断の対象としている住宅は、1～2階建ての一戸建て木造住宅（在来軸組構法、枠組壁工法〔ツーバイフォー工法〕）などで店舗・事務所等を併用する住宅を含みます。

③ 耐震診断問診票

問診①～⑩にある該当項目の評点を、評点の口欄に記入して下さい。

問診① 建てたのはいつ頃ですか？

項目	評価		評点
建てたのは1981年6月以降	1	1981年6月に建築基準法が改正され、耐震基準が強化されました。1995年阪神淡路大震災で、1981年以降建てられた建物の被害が少なかったことが報告されています。	
建てたのは1981年5月以前	0		
よく分からない	0		

問診② いままでに大きな災害に見舞われたことはありますか？

項目	評価		評点
大きな災害に見舞われたことがない	1	ご自宅が長い風雪のなかで、外見では分からないダメージを蓄積している可能性があります。この場合専門家による詳しい調査が必要です。	
床下浸水・床上浸水・火災・大地震などの災害に遭遇した	0		
よく分からない	0		

問診③ 増築について

項目	評価		評点
増築していない。または建築確認など必要な手続きをして増築を行った。	1	一般的に新築してから15年以上経過すれば増築を行う事例が多いのが事実ですが、その増築時、既存部の適切な補修・改修、増築部との接合をきちんと行っているかどうかポイントです。	
必要な手続きを省略して増築し、または増築を2回以上繰り返している。	0		
増築時、壁や柱を一部撤去するなどした。	0		
よく分からない	0		

問診④ 傷み具合や補修・改修について

項目	評価	解説	評点
傷んだところは無い。または、傷んだところはその都度補修している。健全であると思う	1	お住いになっている経験から、建物全体を見渡して判断して下さい。屋根の棟・軒先が波打っている、柱や床が傾いている、建具の建付けが悪くなったら老朽化と判断します。	
老朽化している。腐ったり白蟻の被害など不都合が発生している	0		
よく分からない	0		

問診⑤ 建物の平面はどのような形ですか？（1階の平面形状に着目します）

項目	評価	解説	評点
どちらかというとき長方形に近い平面	1	整形な建物は欠点が多くなく、地震に対して建物が強い形であることはよく知られています。反対に不整形な建物は地震に比較的弱い形です。	
どちらかというときLの字・Tの字など複雑な平面	0		
よく分からない	0		

問診⑥ 大きな吹き抜けがありますか？（1辺の長さが4m以上かどうかに着目します）

項目	評価	解説	評点
一辺が4m以上の大きな吹き抜けはない	1	外見は形の整っている建物でも大きな吹き抜けがあると、地震時に建物をゆがめる恐れがあります。	
一辺が4m以上の大きな吹き抜けがある	0		
よく分からない	0		

問診⑦ 1階と2階の壁面が一致しますか？

項目	評価	解説	評点
2階外壁の直下に1階の内壁または外壁があるまたは、平屋建である	1	2階の壁面と1階の壁面が一致していれば、2階の地震力はスムーズに1階壁に流れます。枠組壁工法の木造は床の耐力が大きいため評点1とします。	
2階外壁の直下に1階の内壁または外壁がない	0		
よく分からない	0		

問診⑧ 壁の配置はバランスがとれていますか？

項目	評価	解説	評点
1階外壁の東西南北どの面にも壁がある	1	壁の配置が片寄っていると、同じ木造住宅の中でも壁の多い部分は揺れが小さく、壁の少ない部分は揺れが大きくなります。そして揺れの大きい部分から壊れます。	
2階外壁の東西南北各面の内、壁が全くない面がある	0		
よく分からない	0		

問診⑨ 屋根葺材と壁の多さは？

項目	評価	解説	評点
瓦など比較的重い屋根葺材であるが、1階に壁が多い。または、スレート・鉄板葺・銅板葺など比較的軽い屋根葺材である。	1	瓦は日本で古くから使われてきた、景観的にも、性能的にも優れた屋根葺材です。しかし、やや重いため建物にはそれに応じた耐力が必要になります。なお、耐力の大きさは概ね壁の多さに比例します。	
和瓦・洋瓦など比較的重い屋根葺材で、1階に壁が少ない	0		
よく分からない	0		

問診⑩ どのような基礎ですか？

項目	評価	解説	評点
鉄筋コンクリートの布（ぬの）基礎またはベタ基礎・杭基礎	1	鉄筋コンクリートによる布基礎・ベタ基礎・杭基礎のような堅固な基礎は、その他の基礎と比べて同じ地盤に建っていても、また同じ地震に遭遇しても丈夫です。	
その他の基礎	0		
よく分からない	0		

判定 問診①～⑩の評点を合計します。

評点の合計が…	判定・今後の対策	評点合計
10点	ひとまず安心ですが、念のため専門家に診てもらいましょう	
8～9点	専門家に診てもらいましょう	
7点以下	心配ですので、早めに専門家に診てもらいましょう	

4 風水害への対策

大雨や集中豪雨が恐ろしいのは、人命や財産等に大きな被害をもたらすからです。被害には、河川の氾濫や山崩れ、土石流、地すべりなどがあり、平成8年に当市（多紀郡南部）を襲った大雨による被害は記憶に新しいところです。

平成8年8月28日 大雨

- 総雨量=195.5mm
- 重軽傷者3名、家屋全半壊14棟、床上浸水15戸、床下浸水323戸。
- がけ崩れ16ヶ所、道路32ヶ所、河川176ヶ所に被害。

川に注意！

大雨により河川は予想以上に早く増水します。河川の氾濫や決壊に注意が必要です。

強風にも注意！

気象庁の資料によれば、風速10~15m/秒の風で取り付けの不完全な看板やトタンが飛び始めます。風で飛ばされた物がガラスを割ったり、家族や通行人にケガをさせては大変なことです。

土砂災害にも注意！

雨水の浸透で地盤がゆるみ、がけ崩れや土石流、地すべり等が起こりやすくなります。降雨時はもちろん、大雨のあともしばらくは注意が必要です。

でも、予測はできます！

台風や大雨は気象情報等によって時期を予測し、対策を立てておくことができます。

「家庭でできる風水害対策」

屋根

瓦やトタンのはがれ、ずれなどをチェックします。めくれやヒビは針金や釘で補強しましょう。



窓ガラス

飛来物や強風で割れないよう、雨戸をし、カーテンを閉めます。窓枠のガタツキを補強しましょう。



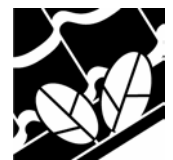
外壁・家の周囲

壁の亀裂をチェックします。鉢植や物干し竿など、飛ばされそうなものは固定するか、屋内に移動しましょう。



雨樋・側溝

雨樋や側溝に詰まった落ち葉や土砂を取り除きましょう。雨樋は継ぎ目がはずれていないか確認しましょう。



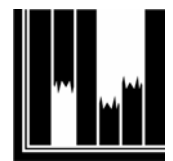
ブロック塀・板塀

ブロック塀のひび割れ・破損、板塀のぐらつきなどがあれば補強しましょう。



雨戸

雨戸のガタツキや緩みは補強し、隙間は板で覆います。



浸水に備える

家財道具や生活用品、食料品などを高いところへ移動しましょう。



情報収集

ラジオやテレビ、防災ネットなどで、気象情報に十分に注意しましょう。



5 避難の心得

1) 日々の備え

常日頃から防災意識を高めることは重要です。緊急時における避難場所や避難時のルート、安否確認などを家族や隣近所、自治会で話し合い、地域の避難ネットワークを構築しましょう。

また正確な情報を入手することも大切です。ささやまデカンショ防災ネットの防災情報メールや丹波篠山地域SNS HOTS、広報車などによる市や防災機関の呼びかけをしっかりとチェックしましょう。

「避難の心得 10ヶ条」

まずは自分の安全確保！	避難する前にもう一度火の元の確認！
荷物は少なくする！	家には避難先や安否情報を記したメモを残す！
安全な服装で避難！	避難は徒歩で！
お年寄りや子どもとはぐれないように！	避難はできるだけ指定の避難場所へ！ (篠山小学校・中学校・交響ホールなどへ)
正しい情報を取り入れる！	狭い道やがけ、塀ぎわを通らない！

2) 安全に避難するために

「家がつぶれる！」「がけが崩れる！」こんな心配があるときは、すばやく避難する必要があります。市は災害などが発生する可能性がある場合は、いつでも避難できる準備をしていただくため「避難準備情報」を出します。災害などの危険性が高まった時には避難を呼びかける「避難勧告」を、さらに危険性が高まった場合には「避難指示」を出しますので、避難生活に最低限必要なものを持って避難を開始してください。避難方法は水害と地震により変わることに注意が必要です。

「水害時の避難」

履物に注意

裸足は禁物です。水深が長靴を越すようなら、運動靴のほうが歩きやすいでしょう。



歩ける深さ

水深が腰まであるようなら無理は禁物です。高所で救援を待ちましょう。



ロープでつながって

はぐれないようお互いの体をロープでつなぎ避難。お年寄りや子どもから目を離さないように。



足元に注意

水面下には側溝や障害物などもあり危険。できるだけ道の中心を歩き、長い棒を杖にして安全確認。



「地震時の避難」

まず我が身の安全を

地震が起きたらまず第一に身の安全を確保しましょう。



脱出口を確保

建物が歪んでドアが開かなくなる可能性があります。すばやく脱出口を確保しましょう。



すばやく火の始末

調理器具や暖房器具の火を確実に消し、ブレーカーも切ります。火が出たときは初期消火に努めましょう。



外に逃げるときはあわてない

瓦やガラスなどの落下物に注意しましょう。



3) 安否確認・避難の手助け

あなたの近所に「介護を要する人」はいませんか。もしかすると高齢者や1人暮らしの方などは困っているかもしれません。声をかけて無事かどうかを確かめましょう。

市から避難の勧告や指示などが出たら、介護を要する人やその家族に声をかけ、避難の準備を手伝い、隣近所で助け合いながら避難しましょう。

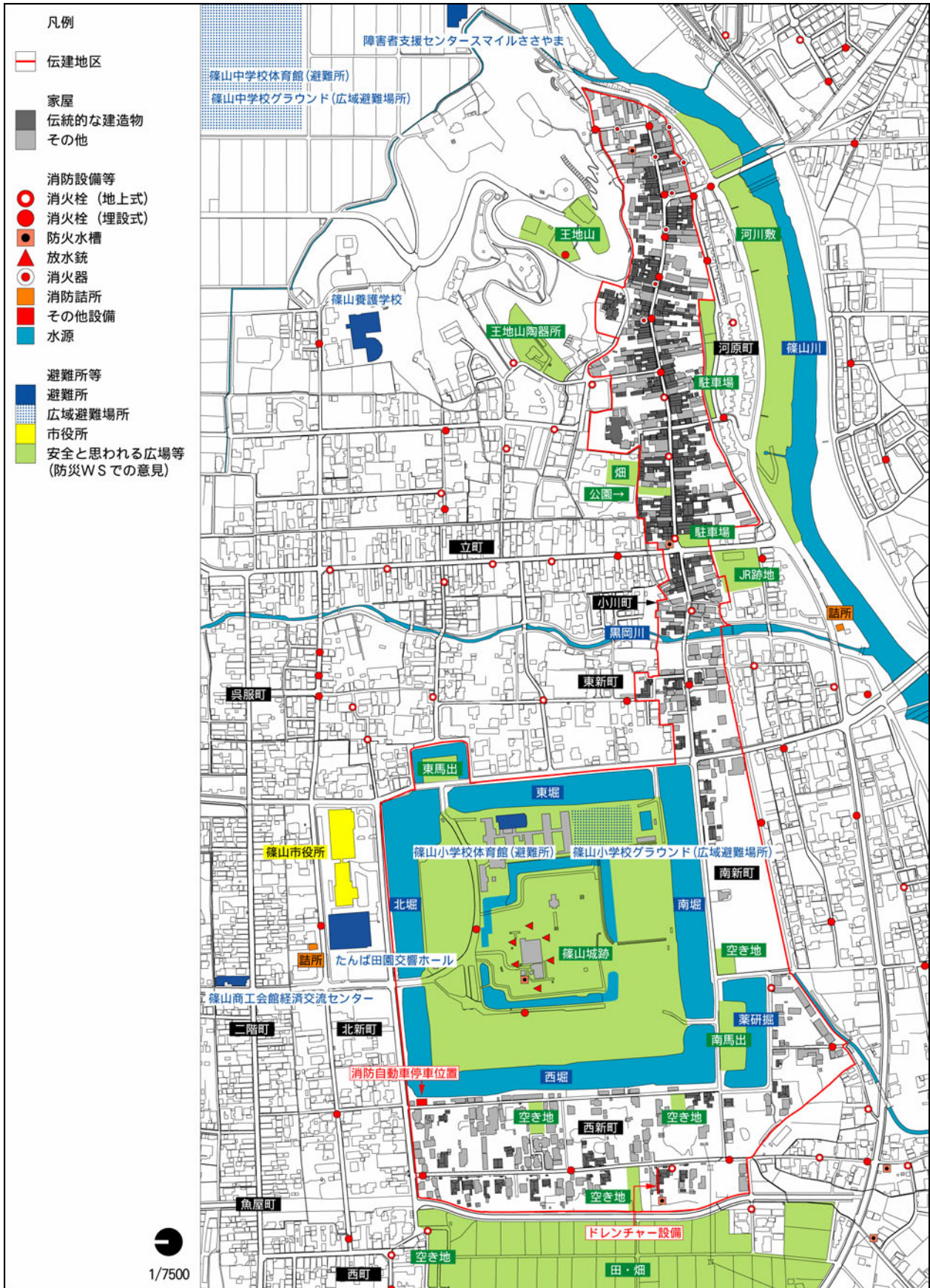
4) 初期消火などの手助け

近隣の方は、火気などの安全確認や火の始末の協力を行いましょう。火災を知ったら、周囲の人に大声で火災を知らせ、「119番通報」をしてもらい、できるだけ初期消火を心がけましょう。それでも初期消火が困難なときは、ガラスの破片や落下物に注意し、家屋から脱出してください。脱出のときは、姿勢を低くし、煙にまかれないように注意します。

「非常時持ち出しチェックリスト」いざというときにすぐ持ち出せるように日頃から準備・点検しておきましょう。

<input type="checkbox"/> 3日分の水 (1人あたり9L) 	<input type="checkbox"/> 3日分の食料 (1人あたり9食分) 	<input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> カード類 	<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ <input type="checkbox"/> 携帯電話 <input type="checkbox"/> 携帯電話用充電器 	<input type="checkbox"/> 懐中電灯 
<input type="checkbox"/> 非常持出袋 	<input type="checkbox"/> 印鑑 <input type="checkbox"/> 預金通帳 	<input type="checkbox"/> 免許証 <input type="checkbox"/> 健康保険証 	<input type="checkbox"/> 下着・上着などの衣料 	<input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 手ぶくろ <input type="checkbox"/> ポリ袋 
<input type="checkbox"/> ティッシュ <input type="checkbox"/> 生理用品 	<input type="checkbox"/> 雨カッパ <input type="checkbox"/> ヘルメット 	<input type="checkbox"/> マッチ <input type="checkbox"/> ライター 	<input type="checkbox"/> 予備のメガネ <input type="checkbox"/> コンタクトレンズ 	<input type="checkbox"/> メモ帳 <input type="checkbox"/> 筆記用具 
<input type="checkbox"/> 石けん <input type="checkbox"/> 水のいらないシャンプー 	<input type="checkbox"/> 粉ミルク <input type="checkbox"/> ほ乳びん <input type="checkbox"/> 紙おむつ 	<input type="checkbox"/> 緊急医薬品 <input type="checkbox"/> 常備薬 	<input type="checkbox"/> 固形燃料 <input type="checkbox"/> 缶切り 	<input type="checkbox"/> 自宅・車のかぎ 

6 防災マップ



7 わが家の防災メモ

火事・救急	119	警察	110
公共機関		ライフライン	
篠山市役所	552-1111	電気 関西電力(株)三田営業所	563-2484
篠山市消防本部	594-1119	水道 篠山市役所	552-1111
篠山警察署	552-0110	ガス 篠山都市ガス	552-2210
		電話 NTT西日本	113
テレフォンサービス		交通機関	
災害用伝言ダイヤル	171	JR篠山口駅	594-0225
気象情報	177	神姫バス	552-1157
電話番号照会	104		
時刻照会	117		
指定避難所		インターネット	
篠山市民センター	554-2188	気象庁	http://www.jma.go.jp/jma/index.html
たんば田園交響ホール	552-3600	兵庫県フェニックス防災システム	http://ebbsin03.bosai.pref.hyogo.jp/public
篠山中学校	552-1155	川の防災情報	http://www.river.go.jp
篠山小学校	552-0069	篠山市地域防災情報	http://www.city.sasayama.hyogo.jp/bosai/index.html
篠山養護学校	552-5237	災害情報伝言板サービス	各携帯電話・PHS トップページ

家族や隣近所の連絡先

氏名	学校・勤務先	住所	電話番号

ささやまデカンショ防災ネット
<http://bosai.net/sasayama>
 篠山市や兵庫県からの防災に関する情報（避難勧告やライフライン被害情報等）を、登録したメールアドレスに配信するサービス。携帯電話などのIT端末をお持ちで未登録の方は、防災ネットにアクセスして、メールアドレスを登録して下さい。

丹波篠山地域SNS HOTS
<http://sns2.sasayama.jp>
 地域SNSとは日常時に日記や電子掲示板として利用したり、行政情報や地域情報などを入手できる地域向けの情報提供サービス。災害時には画面が切り替わり行政からの災害情報や避難情報が提供されます。